

法學博士 山崎覺次郎講述

銀行論

大正五年四月廿二日初版印刷
 大正六年一月十二日再版印刷
 大正六年五月十五日再版印刷
 大正七年三月十六日再版印刷
 大正七年三月二十日再版印刷

大正八年二月廿五日改訂第五版印刷
 大正八年二月廿八日改訂第五版發行

銀行論奧附

正價金壹圓

禁漢譯



著者 山崎覺次郎

發行者 江草重忠

東京市神田區一ツ橋通町五番地

印刷者 白土幸力

東京市本郷區眞砂町三十六番地

發行所

東京市神田區一ツ橋通町五番地
 電話本局三二三番
 振替貯金口座東京三七〇番

有斐閣書房

發賣所

東京市神田區南神保町十三番地
 振替貯金口座東京五四〇六番

有斐閣雜誌店

賣捌所

東京市本郷區森川町一番地

有終閣書房

賣捌所

東京市牛込區早稻田鶴卷町

文影堂書店

銀行論目次

第一章 緒論

第一節 「銀行」ナル名稱

第二節 銀行ノ定義

第三節 銀行業務ノ種類

第二章 銀行券ノ發行

第一節 銀行券ノ性質

第二節 銀行券發行ノ集中

第三節 中央銀行ヲ國有トナスノ可否

第四節 銀行券兌換準備ノ制度

第五節 業務ノ制限其他ノ規定

銀行論目次

一 一 二 六 八 八 一三 一九 二五 五四

第三章 預金

第一節 預金ノ沿革

第二節 預金ノ種類

第三節 小切手

第四節 振替制度及ビ手形交換制度

第五節 準備金及ビ預金ノ運用法

第六節 預金制度ト貨幣ノ節約

第四章 債券ノ發行

第一節 不動産抵當銀行ノ債券

第二節 動產銀行ノ債券

第五章 手形ノ割引

第一節 手形ノ割引ガ手形所持人ニ與フル利益

一一〇

第二節 資金使用法トシテノ手形割引

一一一

第三節 割引歩合

一一五

第四節 割引政策

一二二

第五節 擔保品附手形割引

一二八

第六章 貸付

一三一

第一節 動產擔保貸付

一三一

第二節 當座貸越及ビ「カッシェクレヂット」

一三四

第三節 不動產抵當貸付

一三七

第四節 「コール、マネー」

一三八

第五節 貸付ノ利率

一四〇

第七章 爲替

一四二

銀行論

目次

終

第一節	內國爲替
第二節	外國爲替
第三節	國際貸借
第四節	爲替相場
第五節	間接爲替(裁定爲替)

一四二
一四五
一四九
一五二
一六五

銀行論

法學博士 山崎覺次郎講述

第一章 緒論

第一節 「銀行」ナル名稱

「銀行」ナル語ハ今ヤ吾人ノ耳目ニ熟スト雖モ其ノ一般ニ用キラル、ニ至リシハ實ニ明治五年ニ制定セラレタル國立銀行條例ニ基因スルモノトス是ヨリ先キ慶應三年神田孝平氏經濟小學ヲ譯述スルヤ「金館」ナル文字ヲ用キ慶應二年印行ノ英和字彙ハ「バンク」(Bank)ヲ譯シテ「金銀ヲ預リ爲替ヲ組ム座」ト云ヘリ然ルニ一八六六

年香港ニ於テ出版セル英華字典ハ同字ノ譯語トシテ「銀行」ヲ第一ニ置クガ故ニ明治三年福地源一郎氏ノ譯セル會社辨ノ序ニ「銀行」ナル文字アリト雖モ是レ果シテ氏ノ案出ニ係ルヤ否ヤ予ハ寧ロ英華字典ニ據レルモノト信ズルナリ何トナレバ當時我邦ノ貨幣制度ハ紊亂ヲ極メテ本位未ダ確定セズ從テ特ニ「銀」ノ字ヲ選ブ理由ナク且「行」ナル文字ヲ店舗ノ意義ニ用キルハ我國ニ於テハ甚ダ稀ナレバナリ然ラバ則チ國立銀行條例制定ノ際ニ採用セラレ遂ニ人口ニ膾炙スルニ至レル「銀行」ナル語ハ英華字典ニ淵源スト云フモ不可ナキガ如シ籲テ「バンク」(Bank)ナル原語ノ來歴ヲ案ズルニ英人マク・ラウド(Macleod)ハ頻ニ反對スト雖モ中古伊太利ノ兩替商ノ用キタル卓子即チ「バンコ」(Banco)ヨリ來レリトノ說ヲ唱フル學者多シトス

第二節 銀行ノ定義

「銀行トハ貨幣ノ需要者ト供給者トノ間ニ立チ自己ノ計算ニ於テ廣ク兩者ト信用取引ヲ爲スヲ業トスルモノヲ謂フ」

銀行ノ定義ハ從來其數少ナカラズ其内容區々ニシテ之ガ選擇取捨極テ困難ナルヲ以テ予ハ比較的適切ト信ズルモノ數種ヲ折衷シテ前掲ノ如キ定義ヲ下サント欲スルナリ而シテ何故ニ斯ノ如キ定義ニ歸著セルヤ以下少シク其理由ヲ陳述セ

一 從來ノ定義中資本ナル語ヲ用キタルモノ少ナカラズト雖モ此語ハ其意義頗ル廣ク例ヘバ家屋機械ノ如キモ亦一種ノ資本タルヤ疑ナキナリ然レドモ銀行ハ家屋又ハ機械ノ貸借ヲ業トスルモノニ非ズ其取扱ニ係ルモノハ資本ノ一種ナル貨幣ナリトス貨幣ナル語モ亦其意義ニ關シテ議論紛出スト雖モ予ハ一ノ社會ニ於テ交易ノ媒介ノ價值ノ尺度トシテ一般ニ用キラル、財貨ヲ貨幣ト稱セント欲スルナリ論者或ハ曰ハン銀行ハ貨幣ノミヲ取扱フモノニ非ズ例ヘバ小切手ヲ以テ預金ヲ爲スガ如キ場合ハ如何ニ之ヲ説明スルヤト蓋シ小切手ハ貨幣ニ非ザルナリ然レドモ其表示スル所ハ實ニ貨幣ニ他ナラザルヲ以テ小切手ヲ預ケ入ル、ハ結局貨幣ヲ供給スルニ非ズシテ何ゾヤ學者往々如上ノ疑義ヲ避ケントシテ購買力(Purchasing Power)ナル語ヲ用キルト雖モ此語ハ抽象的ニ

過グルノ嫌ナキニ非ズ且一般ノ購買力ヲ表現スルモノハ實ニ貨幣ナリトス

二 信用取引トハ當事者一方ノ給付ハ現在ニ行ハレ之ニ對スル他方ノ給付ハ將

來ニ屬スルモノヲ指シ之ヲ信用取引ト稱スルハ給付者ガ將來ニ於ケル反對給付ノ受領ヲ豫メ信ズルニ基因スレバナリ而シテ銀行ノ主要業務ハ皆貨幣ニ關スル信用取引ニシテ所謂信用ノ授受ナルモノハ銀行ノ銀行タル要件ナリトス

三 銀行ハ信用取引ノ媒介ヲ爲スモノナリト云フ者アリト雖モ媒介ナル語ハ誤解ヲ惹起スルノ恐ナキニ非ズ何トナレバ媒介ト云フトキハ單ニ紹介周旋ノ勞ヲ執ルニ過キズ取引ノ責任ハ之ヲ負擔セザルガ如キ觀アレバナリ然ルニ實際銀行ノ主要業務ハ決シテ代理又ハ仲立ヲ爲スニ非ズ預金ヲ受入レタルトキハ預金者ニ對シテ自ラ債務者トナリ手形ノ割引ヲ行フヤ自ラ債權者ノ地位ヲ取ルナリ是レ媒介ナル語ヲ用キズシテ特ニ自己ノ計算ニ於テト明記シタル所以ナリ

四 貨幣ニ需要者又ハ供給者ニ對シテ一面ノ信用取引ヲ爲スモノアリ例ヘバ質

商又ハ金錢貸付業者ノ如キハ主トシテ自己ノ貨幣ヲ貸與スルモノニシテ廣ク

公衆ヨリ貨幣ヲ吸收スルモノニ非ズ又郵便貯金ノ如キハ頻ニ公衆ヨリ貨幣ヲ預リ入ル、ト雖モ他ノ一方ニ於テ廣ク信用取引ヲ爲スモノニ非ズ從テ此二者ノ如キハ以テ銀行ト稱スルヲ得ザルナリ前掲ノ定義ニ於テ特ニ兩者ナル語ヲ用キタルハ信用取引ノ兩面ニ互ルコトヲ明示センガ爲メノミ

五 業トストハ繼續的ニ業務トシテ營ムノ謂ニシテ其經營ノ形式ハ個人企業タルト將タ會社組織タルトヲ論ゼズ又私立若シクハ官立タルヲ問ハザルナリ而シテ銀行モ他ノ企業ト同ジク利潤ヲ得ルヲ目的トスルモノ大多數ヲ占ムベキハ勿論ナレドモ必ズシモ然リト云フベカラザルナリ

論者或ハ曰ハン過去ノ歴史ニ鑑ミ現今ノ狀態ニ照スモ銀行ノ業務ハ全ク信用取引ノミニ限ルモノニ非ズ而シテ一言ノ他ノ業務ニ及バザルハ何ゾヤト蓋シ近代ノ銀行業ハ貨幣ノ兩替、保管等ニ淵源シ彼ノ振替銀行(Girobanken)ノ如キハ殆ド授信的業務ナルモノヲ行ハザリシト雖モ既ニ過去ノ事實ニ屬シ現今ノ銀行ニ於テモ兩替或ハ保護預等ノ業務ヲ營ムモノ少ナカラズ殊ニ振替業務ハ獨逸、佛蘭西、奧國、白耳義等ノ中央銀行頻ニ之ヲ行フト雖モ要スルニ皆副業タルニ過ギズ又債

券、株式ノ賣買引受等ヲ盛ニ行フ銀行諸國ニ多ク見ル所ナリト雖モ是等ノ業務ハ各種ノ銀行ニ共通スルモノニ非ザレバ之ヲ定義ニ掲ゲザルヲ以テ寧ロ其當ヲ得タルモノト信ズルナリ

第三節 銀行業務ノ種類

前述ノ如ク現今ノ銀行ハ貨幣ノ信用取引ヲ以テ主眼トナスモノナルガ故ニ其業務ハ之ヲ左ノ二種ニ大別スルコトヲ得ベシ

一 受信の業務 (Passivgeschäfte)

二 授信の業務 (Aktivgeschäfte)

而シテ受信の業務ノ主タルモノハ銀行券ノ發行、預金ノ受入及ビ債券ノ發行ニミテ授信の業務ノ重要ナルモノハ手形割引及ビ貸付トス彼ノ爲替ニ至リテハ受信の業務タルト同時ニ又授信の業務タル性質ヲ有スルモノニシテ其他附隨ノ業務ハ保護、預取立及支拂ノ代理、貨幣ノ兩替、債券株式ノ賣買引受等はナリ

以上列舉シタル業務ハ何レノ銀行ト雖モ悉ク之ヲ行フニ非ズ各專門トスル所ヲ

選ブモノトス是レ即チ銀行ノ分業ニシテ銀行ニ幾多ノ種類ヲ生ズル所以ナリ然レドモ其境界ハ必ズシモ截然明確ナルニ非ズ例ヘバ發券銀行モ其授信的業務トシテ手形ノ割引又ハ短期ノ貸付ヲ行フハ他ノ銀行ニ異ル所ナク又發券銀行ノ數甚ダ多キトキハ銀行券ノ發行ヲ以テ銀行普通ノ業務ト看做サルヲ得ザルナリ從テ銀行ノ種類ヲ標準トシテ講述スルトキハ往々重複スルコトアルベキテ以テ業務ノ種類ヲ順次ニ説明シ銀行ノ種類ハ之ヲ附隨シテ述ベント欲ス

銀行ガ社會ニ與フル利益ニ至リテハ其營ム業務ノ種類異ルニ從ヒテ同ジカラザレバ各種ノ業務ヲ説明スルニ當リテ自ラ論及スル所アルベシト雖モ獨逸ノ經濟學者コンラード(Conrad)ノ言ハ概括的ニ論評シテ能ク肯綮ニ中ルヲ以テ之ヲ掲ゲン氏曰ク「人或ハ銀行ヲ以テ動物ノ心臟ニ比スルハ譬喩其當ヲ得タルモノト云フベシ蓋シ心臟ノ職能タル身體ノ各部ニ清血ヲ送りテ活動ヲ喚起シ汚血ヲ吸收シテ之ヲ分解スルニ在リ而シテ銀行ノ用ハ實ニ之ニ酷似スト」

第二章 銀行券ノ發行

第一節 銀行券ノ性質

銀行券ハ計算ニ便ナル端數ナキ金額ヲ表示スル證券ニシテ同一金額ノモノ多數ニ發行セラル、ヲ以テ全部印刷セラレ單ニ引渡ニ依リテ移轉スルモノトス而シテ之ヲ發行セル銀行ハ所持人ノ要求次第何時ニテモ之ヲ政府發行ノ貨幣(殊ニ金屬ノ本位貨幣)ニ兌換スルノ義務ヲ有スルヲ通則トス其性質ヲ檢スルニ

一 銀行券ハ貨幣ノ一種ナリトス若シ世人ノ銀行券ヲ授受スルハ早晚之ニ依リテ金銀貨ヲ得ルガ爲メナルニ於テハ銀行券ハ貨幣ノ代表物ニ過ギズト謂ハザルヲ得ズト雖モ事實上(少クトモ本邦ノ銀行券ニ就テ之ヲ見レバ)金銀貨ニ兌換シ得ラル、コトヲ知ラザルモノ過半ヲ占メ假令之ヲ知ルモ之ガ爲メニ銀行券ヲ尊重スルモノハ極メテ少ク世人ノ一般ニ喜ンデ之ヲ受納スル所以ハ之ニ依リ諸種ノ財貨ヲ買入レ諸般ノ支拂ヲ爲スコトヲ得レバナリ或ハ曰ク銀行券ハ

交易ノ媒介タル職能ヲ竭スト雖モ價值ノ尺度タル職能ヲ備ヘザルガ故ニ貨幣ニ非ズト然レドモ價值ノ尺度トハ貨幣ノ數量ヲ以テ價值ヲ表示スルコトニ他ナラズ而シテ「圓」ノ類ハ貨幣ノ一定量ニシテ金ノ一定量ニ非ザルヲ以テ十圓金貨ノ十圓モ十圓銀行券ノ十圓モ十圓タル貨幣ノ數量トシテ何等ノ差違ナク價值ノ尺度タル職能ハ本邦ニ於テモ金貨ノ獨占ニ非ズ即チ銀行券モ此職能ヲ缺クモノニ非ザルナリ

二 然レドモ銀行券ハ同時ニ信用證券(Kreditpapier)ノ一種ナリト謂ハザルヲ得ズ蓋シ信用證券ノ意義一定セズ之ヲ狹義ニ解スルトキハ信用關係即チ貸借關係ヲ表示スル證券ニシテ一定ノ金額ヲ記載シ通例裏書又ハ引渡ニ依リテ讓渡シ得ベキモノヲ謂フ而シテ銀行券ハ一定ノ金額ヲ表示シ引渡ニ因リテ移轉シ之ヲ發行セル銀行ハ何時ニテモ之ヲ政府發行ノ貨幣殊ニ金又ハ銀ノ本位貨幣ト引換フルコトヲ約スルモノナルガ故ニ銀行ト銀行券所持人トノ關係ハ一ノ貸借關係ニシテ銀行券ノ所持人ハ銀行ニ同額ノ金銀貨幣ヲ預ケ入レ又ハ貸付ケタルニ異ラザルナリ銀行券ノ發行ヲ以テ一ノ受信的業務ナリト稱スルハ此理

由ニ基クモノニシテ兌換停止ノ場合ニハ信用證券タル性質ヲ失フヲ言フ俟タズ

三 銀行券ハ上述ノ如ク信用證券ノ一種タリト雖モ他ノ信用證券ト異ナル點アリ

トス即チ銀行券ハ始ヨリ流通ヲ目的トスルモノニシテ端數ナキ金額ヲ表示スルコト、同一金額ノモノ多數ニ存在スルコト、全部印刷シテ記入ヲ要セザルコト、引渡ニ依リテ移轉スルコト、利息ヲ附セザルコト、發行者即チ銀行ガ通常世人一般ニ知ラル、コト等相合シテ其流通ヲ圓滑ナラシメ之ニ與フルニ法貨タルノ效力ヲ以テスルニ於テハ殊ニ然リトス之ヲ約言スレバ銀行券ハ初メヨリ貨幣タラシムルノ目的ヲ以テ發行セラル、ナリ之ニ反シテ普通ノ約束手形爲替手形ノ類モ世上ニ輾轉シテ貨幣ノ代用ヲ爲スコトアリト雖モ其本能ハ債權債務ノ關係ヲ證スルニ在リテ存シ其ノ順次數多ノ取引ニ用キラル、コトアルハ寧ロ偶生附帶ノ作用ニ過ギズ又彼ノ小切手ハ主トシテ支拂ノ要具タリト雖モ償還請求權ノ有効期間短キガ故ニ流通ニ適セザルナリ無記名式ノ約束手形ニ至リテハ事實上大ニ銀行券ニ類似シ信用ノ大ナル銀行之ヲ發行セバ必ズシモ流通セザルニ非ズ我商法ニ於テ爲替手形、約束手形ハ其金額三十圓以上ニ非ザレ

バ之ヲ無記名式トシテ發行スルコトヲ得ズト規定スルハ蓋シ茲ニ見ル所アリ
シナラン而シテ之ヲ事實ニ徴スルニ同ジク銀行券ナレドモ蘇格蘭ノ銀行券ノ
如キハ兌換ヲ請求セラレテ速ニ其銀行ニ復歸スルヲ以テ信用證券ノ性質著シ
ク發揮セラレ之ニ反シテ本邦ノ銀行券ノ如キハ貨幣タル性質ヲ帶ブルコト甚
ダ濃厚ナルヲ見ルナリ

四

以上ノ論旨ハ政府發行ノ兌換紙幣ニモ等シク適用シ得ベキガ故ニ更ニ進ン
デ兌換紙幣ト銀行券トノ間ニ不同ノ點アルヤ否ヤヲ研究スルニ其差違ハ性質
ノ全ク異ルニ非ズシテ寧ロ優劣ニ存スト云フベク一言以テ之ヲ蔽ヘバ善良ナ
ル銀行券ハ善良ナル政府紙幣ニ勝ルモノトス而シテ其然ル所以ハ流通額ノ伸
縮比較的容易ナルニ在ルヲ見ルナリ即チ銀行券ハ銀行ガ貸付、割引ヲ爲スニ當
リテ發行スルモノニシテ紙幣ハ政府ガ諸種ノ支拂ヲ爲スガ爲メニ發行シ其所
持人ヨリ特ニ兌換ヲ請求シ又ハ租税ノ上納、公債ノ應募等ニ之ヲ用キル場合ニ
於テノミ政府ニ還リ來ルモ銀行券ハ貸付金ノ返濟、割引手形ノ満期ニ因リ自ラ
銀行ニ回收セラレ若クハ同額ノ金銀貨銀行ニ流入スルモノトス之ヲ以テ政府